

カレンダーの絵を描いた子どもたち

表紙 小学3年生

この絵は、3年生になって、クラスの中に「それちがう、先生に言いつける」と言う子がいて、モヤモヤな気持ちがあった。この日ハケを使って描いたら、どんどんおもしろくなってモヤモヤの気持ちが無くなった。だから自由に絵を描くことはすごく楽しい。

1月 1歳11ヵ月

7ヵ月で入園。3月生まれで、同級生にもかわいがられている。赤ちゃんの時から自分の思いを貫き通すあきらめない強さを持っている。歌や踊りが大好き。喜怒哀楽がはっきりしており、感情表現の豊かな子。

2月 小学5年生

5年生になり、“他人と比べている自分が嫌だ”と気づいた。“お母さんもっと愛をちょうだい”と言ったら、一緒にお料理と絵本を読んだ。一番好きなマドレーヌの絵本を読む声がいい声だったとき、“わたしをわかってくれたと思った”それからは、よけいなことは考えなくなり、シンプルな心持ちで、楽になった。

3月 2歳7ヵ月

“自分は自分”という感覚をしっかりと持っていて、楽しいことを自分で見つけ出す。3歳児の中にも入っていき、自分を主張して遊ぶ。

両親が、赤ちゃん扱いをしていないかと自分を見つめ、自分たちの向き合い方を変えようとなった冬の終わりの絵です。

「子どもだけでなく、親のことも、そのまま受け入れてもらえる安心感がある。」「保護者もみんなで育ちあっていくところに惹かれ」、片道1時間通ってきています。

4月 小学5年生

4年生では、「自分はこう思う こうやりたい」気持ちが強く出てきたが、親がいちいち言ってきて胸に入ってくることにイライラがあった。

5年生になりコマ(園長)にも力をかり、自分の言葉で向き合うときめ、『楽になり 心が広い感じがした』が、何か変なものが残っているとも感じていた頃の絵。

5月 3歳

自分の思いのままに動くことで自由になり、強い意志が育ってきています。友だちを求め、つながりを楽しんでいます。

6月 小学4年生

とねっこで絵を描くのは、自分で気持ちもやり方も決められ自由だから大好き。
本を読むのはおもしろく楽しいので大好き。毎日読んでいる。まわりのみんなは何で読まないのだろうと思う。

3、4年生で読んだ『小公女』の少女の持つ“きれいな心”が心に残っている。
今、下級生に「やりかえすより がまんする子の方が強いんだよ」と言葉をかけてくれている。

7月 4歳6ヵ月

3歳児から転園してきました。
4月の頃は新しい友達の様子を観察しながら同じことをすることで、安心感を保っている姿がありました

が、生活に慣れてくると本来持っている自分の意思がどんどん友達の中에서도出せるようになりました。また、同じクラスの友達だけでなく4歳児・5歳児とも関わりをもつようになり、遊びの幅も広がって自分の力を試し、発揮していく姿も増えました。このカレンダーの絵を描く頃には、一枚一枚に集中して絵を描く楽しさを表現するようになってきました。

8月 小学6年生

このカレンダーの4月の絵の子の1年後の絵。1年たって6年生になって、目標を決め、見える所に貼った。

最後の6年生 学校を楽しむ 野球を楽しむ 学童を楽しむ。

毎日が全部楽しく感じるようになった。大変だと思えることが全てなくなって、ずっと無限大な感じがしている。青の絵を描こうと決めて描いた1枚。

9月 5歳8ヵ月

「家から一歩外に出たら、誰とも何もしゃべらない」ということが3歳1ヵ月、入園時、両親の心配ごとでした。家でぐずり、泣き出すと止まらない。「○○する?」、気をそらせようとしたらますますぐずる。「だっこして」。その通りにすると、しばらくして「もう大丈夫になった(良くなった)」と言葉にして、自分で立ち直った子でした。安心できる園の生活・仲間の中で、その「もう大丈夫になった」がどんどん増えていったのだと思っています。

あそびたい人とあそびます。ひとりでも、もくもくとねばり強くとりくみます。4歳児がおわる頃の絵です。

10月 小学5年生

ずっと私ここにいるよ、気づいてと一日中考えちゃっていた。親がとねっこの話し合いで宮沢賢治の「まつりのぼん」を読んでもらったこの日、やっと向き合って心に入れてくれたと思った。一緒に話したり、絵本を読んだ。

次の日の絵。ハッピーになり、新しいバージョンで光を描いた。今、言いたいことが言え、やりたいことがやれる。他人の気持ちに向きあえ、何があってもプラスにとらえられ、自分の世界が広がったと思う。

11月 6歳10ヵ月

自分の考えを進んで人に伝えることが少なかったり、大勢の前で普段の自分が出せなくなってしまうりする面もあるが、絵からもしっかりした自分の考えを持っていないわけではないように思う。年長の後半、学童の鬼ごっこなどに混ぜてもらって遊ぶ中で、瞬時に判断して動かなくてはならなかったり、人にこうしてほしいと言葉で伝えなければならぬ場面も多くあり、大きな声でコミュニケーションが取れるようになっていったように思う。

12月 小学5年生

「学童では、自由だから、描くのがとても楽しい。」
「今日の気持ち」で描く。自分で決めた通りに描けるのがいい。」
2年生から1年余り、学校へ行かなかった。
「大人の“上から目線”が嫌だった。わかる言葉でしゃべってくれなかったし、ちゃんと聞いてくれないから悲しかった」と、人としての在り方を大人になげかけた。
学童に行かない日は、一つ下の気が会う友だちと遊び、「絵本の読みあいっこもしている」とのこと。

保育者の延長としての活動



迎えてくれる保育の場があり、交流する仲間がいることがありがたいです。自分の未熟さに気付いたり変化する自分にワクワクドキドキしています。保育の活動は年々重要になってきていると感じています。

協力園

さくら保育園(絵を実践した保育園)

社会福祉法人 太陽 半田市西大矢知町4-61-1 0569-89-8998

名古屋 村上敦子(アートさくら)



写真——島根県里親の会大会

ねえ、チョット小耳にはさんでよ♪“さとおや”を。
第12回 里親さんとの「ミニおはなし会 松江地区里親会主催

この会は、「里親ってどんな人?」「里親の家ではどんな生活?」「里親ってどうやってなれるの?」など、里親について知りたい方ならどなたでも参加できる会です。

テーマは特に設けませんので、参加者の方からの率直な質問にお答えしますよ♪少人数のアットホームな雰囲気です。

保育者の経験を生かして、自分も里親をしつつ里親の学習会も開いています。(島根県 錦織いづみ)